



季節を知ったら  
暮らしが楽しくなった

（第一七三号）

啓蟄 けいちつ

三月六日

## 伊勢の春雪

今年はよく雪が降ります。先月十四日の朝は、一面の雪景色に目を見張りました。伊勢神宮が参拝停止になったほどの珍しい積雪でした。

「雪は豊年のしるし」ともいいますが、これは太平洋側など降雪量の少ない地域に残ることわざで、多量の水を必要とする稲作は、山の雪解け水が豊富であれば、干害の心配がないため、雪はその年の豊作の前兆ととらえたものです。反対に日本海側の豪雪地帯は、「寒の雨は豊作」といわれ、寒中に雨が降ると暖冬で、苗代が早めに用意できるので豊作につながると伝わりません。

こうした気候でその年の豊作を予想する気象のことわざは、气象台や測候所がなかった昔の人々の経験則てきけんそくによる、地域の知恵がたまっています。

私の実家のある津では、「伊勢に雪が降ると、春が来る」と伝わることを父から聞きました。伊勢から三十キロほど離れた津地方では、南に位置する伊勢で雪が降ると春の兆しと見るようです。

すると、方言を研究する方から、「伊勢の春雪」という素敵な言葉を教えてもらいました。なんでも三月中旬頃に伊勢に降る雪のことをいうそうです。

春に降る雪は、冬とは違って溶けやすく、降るそばから消えて積もることがありません。以前、神宮の森を撮影しようと鼓ヶ岳つづみがだけに登ったら急に雪が降ってきたので驚いたことがあります。あれは三月のことでした。

また、鈴鹿市神戸かねべでは毎年三月に「神戸の寝釈迦ねじやか」という龍光寺りゅうこうじの涅槃会ねはんえが行われます。その日によく天候が荒れることから「神戸の釈迦の荒れじまい」といわれます。今年は三月八日から十日に予定されています。このとき、伊勢でも再び寒が戻るかもしれませぬ。

文 千種清美

